



“よねやま”から広がる新しい世界 ⑰

出逢いは感動の始まり



大阪東 R C
(第 2660 地区 大阪府)

カウンセラー

井上 雅晴 さん

気づかされた本当の出逢い

「井上さんはカウンセラーでしょう？ このままでは彼がかわいそうです。力になってあげてください」。クラブの事務局員から、突然こう言われたことをきっかけに、米山奨学生バンバット・トゥメンデルゲル（以下、トゥメン）との本当の“出逢い”が生まれました。

聞くと、奨学生になったばかりのトゥメンがクラブの親睦会の席上で、「ウランバートルのゲル地区に、貧しい子どもたちのための図書館を造りたい。力を貸してほしい」と訴えたものの、同席した会員たちに聞き流され、肩を落として帰っていったとのこと。クラブはもともと国際奉仕を積極的に行っていませんでした。やりたくないわけではなく、どう動けばいいのかわからない、英語もできない、どのくらいの予算で何ができるか見当もつかない、と“ないないづくし”だったわけです。

その図書館の話はもともと、モンゴルのフレール・ローターアクトクラブ（RAC）が単独で実施し、1年で頓挫したプロジェクトでした。幼少期に遊牧生活をしてきたトゥメンは、母国にいる時からこのことを残念に思い、再開を願っていたのだそうです。

私は2014年8月、可能性を探るためにモンゴルへ行きました。出発を前に、会員からは「行くのはいいけど、プロジェクトのことは早まった行動をしないように」とくぎを刺され、妻からも「頼むから波風を立てないで」と言われました。それでも、このままでは彼の気持ちを無視したことになる、せめて検討課題として取り上げてやりたい……。その一心でした。

回り始めたクラブの車輪

モンゴルでは、フレールRACを提唱しているフレール・

ロータリークラブ（RC）の例会に出席。この時、トゥメンらがフレールRCに図書館プロジェクトへの協力を要請したものの、具体的に進められない……と断られました。しかし、一人の会員が私に日本語でこう言ってくれたのです。「私は米山学友です。次年度会長になります。必ず協力しましょう」と。この男性こそ、米山記念奨学会の資料で必ず目にする、ジャンチブ・ガルバドラッハ氏でした。

帰国後、次年度のクラブ国際奉仕委員長が「グローバル補助金に申請してみたら」と助言をくれました。トゥメンは社会勉強のために、と会員の職場見学を願い出るような学生です。みんなから親しまれる彼の人が潤滑油となり、重かったクラブの車輪が徐々に回り始めました。

昨年6月に帰国したトゥメンは、正式にフレールRACに入会し、図書館プロジェクトの中心となって奔走しました。そして今年5月、フレールRC、フレールRAC、さらにはモンゴル米山学友会の協力を得て、4つの学校に図書室を完成させることができたのです。

相田みつをの詩に、「感動が人間を動かし、出逢いが人間を変えてゆくんだなあ」という一節があります。私は“米山”を通じて、まさにこのことを実感しました。英語ができないから、現地の事情がわからないからと諦めていた国際奉仕も、米山学友と一緒になら実現できます。

ウランバートルには今も、児童数が多く、一日に交替制で授業を行う学校が数多くあります。モンゴルだけでなく、われわれにも新しい風をもたらしてくれる図書館プロジェクトです。今後も継続し、もし賛同してくれるクラブがあれば、一緒に取り組みたいと思っています。



図書室の完成を祝ってテープカット

今年度の「よねやまだより」も前年度に続き「よねやま」から広がる新しい世界」シリーズをお届けします。米山奨学生との出会いから、クラブ・個人として新たな発見や国際交流につながった体験談を、ロータリアンと奨学生の双方の視点から語っていただきます。今月は世話クラブの協力を得て、母国モンゴルでの図書館プロジェクトを実現した米山学友バンバット・トゥメンデルゲルさんと、カウンセラーの井上雅晴さんにお話を伺いました。



米山学友
バンバット・トゥメンデルゲルさん

出身：モンゴル
奨学期間：2014 - 15
学校名：大阪大学大学院

パパと一緒に進んだ道

モンゴルの首都ウランバートルに「ゲル地区」と呼ばれる地区があります。自然に大きく依存する遊牧生活は年々厳しくなり、遊牧生活を捨て、「ゲル」というテント家屋ごと移住する人が急増し、できた地区です。しかし、彼らが新天地を求めてウランバートルに来ても、親は低賃金の肉体労働、子どもは30人に1冊しか教科書がないような状況です。

この地区に図書館を造ろうとして中断していた、フレールRACのプロジェクトに、大阪東RC、モンゴルのフレールRCが力を貸してくれました。グローバル補助金というロータリー財団からの支援もあり、4つの学校に図書室を造ることができました。子どもが勉強熱心になったと親は喜び、地元の園児や大人も利用しています。ハコを造っただけではなく、今後、僕たちフレールRACでは留学情報を提供したり、語学レッスンなどを継続して実施していこうとしています。

実現までに、クラブやロータリー財団からの厳しいチェックを受け、何度もダメ出しをされました。自分

の力が及ばなかったと、何度も諦めかけました。でも、そのたびにカウンセラーのパパが、進める道と一緒に探してくれました。パパは本当の親と同じように僕を信じ、時には盾になり、厳しく叱ってくれる存在です。

両国の絆を強めるきっかけに

僕はもともと国費奨学生として来日しました。修士課程2年次に米山奨学生となり、日本を見る目がガラリと変わって、これまでになかった好奇心が湧いてきました。大阪東RCの皆さんからは成功者の哲学や考え方、なぜ人は助け合うのか、などを学びました。米山奨学制度では、ほかの奨学金にはない、社会との接点が生まれます。そして卒業後もずっと日本とのつながりが残ります。僕はモンゴルへ帰国しましたが、日本に来るときはいつも「ただいま」と言います。

図書館プロジェクトを機に、思いがけない輪が広がっています。今年9月、図書室を造った学校で「モンゴル・日本文化祭」が開かれ、第2660地区のローターアクターが来て、フレールRACと協同で子どもたちと折り紙やお面作りを楽しみました。両国のローターアクター同士の絆も強くなりました。こうした図書室を40の学校に造ること、それが今後の目標です。

ロータリー米山記念奨学会事務局
米山記念奨学事業、または「よねやまだより」について
のご意見を、当奨学会まで、ぜひお寄せください。
Tel. 03-3434-8681 Fax. 03-3578-8281
Eメール：mail@rotary-yoneyama.or.jp



マレーシアに米山学友会が創立されました

9月12日、マレーシア・ペナン州で、米山学友会の創立総会が開かれ、学友21人が出席しました。今年5月のソウル国際大会への参加を機に、急速に結束を強めたマレーシアの学友たちが学友会創立に向けて動きだし、早期に実現しました。創立会長に就任した黄麗容さん(2001-04/横浜泉RC)は「日本在住の学友にも声をかけ、マレーシアと日本の両方で、地域の環境保護や教育に貢献できる活動を計画しています。参加する学友や後輩たちの誇りになるよう頑張りたい」と抱負を語りました。今後、12月の当会常務理事会での承認を経て、正式に海外8番目の米山学友会となります。



創立総会に集まった学友会メンバー